

求める会ニューズ No. 963

3月全体会報告

3月20日(水) 10:00~12:30

検討事項

- 1) 2018年度活動報告 特に意見無し
- 2) 2019年度総会(5/25)のもち方について
 - ・時間は10:30~14:00
 - ・部員17人でバラ寿司を作る予定。部員以外で作れる人は申し出てほしい。寿司のほか果物(いちご、みかん)リンゴジュースなど用意。
- 3) 収穫感謝祭(11/16・土)のもち方について
 - ・時間は10:30~14:30。マルシェ方式でやる。昨年の反省点なども踏まえて検討する。
- 4) 求める会の今後について
 - ・今度の総会で、3年後に閉じることを決定するのは早すぎるのではないか。
 - ・来年の総会までに、生産者、あしの会、会員の今後について話し合い、来年の総会で決めることにする。その時点の状況によって閉じる時期を決める。

(出席者の主な意見)

 - ・3年で閉じると思っていた。延びることになれば実務の人たちが大変ではないか。
 - ・あしの会とは考える方向が同じなので、話し合えば生産者の今後についてもひらけるのではないか
 - ・もうこの辺りが閉じる潮時ではないか
 - ・昨日グループで2名から退会の申し出があった。やはりもう閉じる時期かなと思う。
 - ・来年の総会で決定するとして、それから3~4年は長すぎるのではないか。基金の使い方も考えなければならないし、求める会という名前も無くなってしまふのだろうか。
- 5) 2019年度の代表と世話人の選出
 - ・世話人については来年度もほぼ現在のメンバーが引き継ぐ。
 - ・代表は置かなくてもいいのではないかと意見もあるが、対外的にも顔の無いような感じではよくないので代表を置くことを前提に意見を

聞きたい。

(出席者の主な意見)

- ・会を閉じるに当たって代表は大変。1人に負担が掛かりすぎないためにも共同代表とか、回り持ちなどの方法はどうか→回り持ちは無責任になりやすいのではいか
- ・現部員だけでなく今までの代表経験者なども考慮してはどうか。
- ・共同代表2人と副というのはどうか
- ・部員以外の人でもいいのでは→やはり部員の中からの方がいいと思うが。
- ・飛田さんに代表をしてほしいと思っているが→今はみんパスの理事をしていて大変忙しい。重い仕事でもあるし責任もあって、今は考えられない(飛田)

結局決まらず、もう少し皆で話し合い、知恵を出し合うということで、4月の部会まで持ち越しになった。

- 6) 「さよなら原発神戸アクション」のイベントの協賛について

桜木町Gの横山さんから申し出があった。求める会は元々反原発の立場であるし、出席者全員で賛成し、協賛することになった。

報告事項

【生産者担当】

- ・野菜…4月から端境期に入り、第1週火、金は配送休み。4月第2週に市有研の総会。
- ・米…橋本拓己さんのお米に少し黒い物が混じっていた。
- ・卵…雛が卵を産み始めた。小さいのもあるが順調。
- ・牛乳…各配送店によってまちまちだが、とりあえず10円値上げする。

【会員担当】3月の会員数は213名。地域集会報告は2面参照。

【会計】2018年度の会計監査は4月3日。監査係は近藤幸子さん、横山美子さん(逆瀬川G)

【その他】訃報…牛乳の生産者だった婦木則夫さん、みかんの生産者だった中村とみさん、お二人

にそれぞれ 5000 円のお香料を差し上げた。

4 月 17 日 (水) 10:00～ 全体会 司会:岩本 記

【お知らせ】・4 月 10 日 (水) 10:00～ 部会 ・ 録:花岡

冬の地域集会報告～市有研の生産者を囲んで



【中地区＝東灘・灘・中央・兵庫・長田】 3 月 1 日 (金) 神戸学生青年センター

出席者 市有研＝一色富士夫さん 求める会＝飛田・小浦 (鶴甲団地)、山崎 (赤松町)
茂松・岡部 (センター)、福本 (本一)、松島 (藤原台)、岡 (西山町)、山下 (御影山手)、岡 (西山町)、花岡 (都由乃町)

畑の様子をお聞きました。去年 10 月は気温が高く、大根などは一気に生長し豊作になったが、夏野菜はほとんど駄目になった。その分、取り返したいという思いで頑張り豊作になったが、40 年野菜を作っていて、こんな事は初めて。野菜不足を心配して、去年秋はたくさん種を撒き、予備の畑にも撒いたら全部成長し大豊作になった。橋本さんの畑も野菜が余ったと思う。

夏は高温のため花が咲いても実が成らずハウス栽培のミニトマトは不作。橋本さんは露地植えだが、大雨で水に浸かってしまい不作。今年の夏は雨が多く、冷夏らしいので、ハウス栽培も考えているが、台風などで壊れたりし、買い替えも考えられるが、今後のことも考えると躊躇している。

市島も丹南も高齢化がすすみ、農家が減少してきた。一色さんの集落は 15 軒、32 人になり継ぐ人がいない。しかし、定年後に休耕地を整備する人や、新規の若者が 2 人きて、米作りをするようになった。これからのことは分からないが、希望が見えてきたようです。(都由乃町 G 花岡 桂子)

【東地区＝宝塚・西宮・尼崎・芦屋】 3 月 2 日 (土) 西宮公民館 401 号室

出席者 市有研＝橋本慎司・慶子夫妻、 求める会＝岩本・東山 (松浜)、大森・田中・福井・横山 (逆瀬川)、西 (尼崎)、今田 (亀井町)、飛田 (会員担当)

初めに、2 月に亡くなった中川慶子さん (中山 G) を追悼する時間をもった。告別式の模様、反原発運動、太陽光発電など新エネルギーをすすめる運動で活躍された中川さんの人となりについて語り合った。

橋本慎司さんは丹波市の農業委員、市島の堆肥センターの運営委員長をされており、今まで酪農家の処理施設になっていて質が悪かった堆肥を地元で使えるように改善していきたいと話された。丹波市では新規就農者が増え、自然栽培も入ってくるようになったが、一方で、有機農産物の購入量が増えず、過剰生産気味、求める会のような提携によって大量に購入してくれる団体は大事だという。

慶子さんは「安定供給するためには無駄を大量に出さなければならない。でも、無駄を出したくない」という。卵が余ったとき、福島「ママの会」に送ることができて、助かったという。余った農産物をさばくにはどうすればよいか。とりあえず、逆瀬川 G のステーションになっている宝塚教会で売りさばくことができないうか、具体的な方法を考えることになった。(亀井町 G 今田 裕子)

【西地区＝須磨・西・北・垂水・明石・加古川・高砂】 3 月 9 日 (土) アピア明石 8F 802 学習室

出席者 市有研＝橋本慎司・慶子夫妻 求める会＝村川・庄谷 (大久保)、嶋野 (朝霧)、藤原 (高砂)、高橋 (ジェームズ山)、小原 (加古川東)、飛田・岡部 (会員担当)

橋本夫妻から鶏舎の様子、畑の様子をお聞きました。去年の大水害で回りの鶏舎が水没したため、橋本さんの鶏舎にイタチが集中的に来る。猫が住み着いてネズミやゴキブリがいなくなっていたが、イタチが来るようになって猫が寄り付かなくなった。去年は 9 月まで天候不順、10 月からよくなりキャベツも結球した。これからトウ立ちが出てくる。

WWOOF で受け入れている外国人はフランス人、台湾人が多く、イスラム圏からも来られるので、民族や宗教の違いによって対応が大変で、今まで 15 カ国、45～50 人くらいを受け入れて来たが、国別の大体の特徴がわかってきたとのこと。

市島は新規就農者が多く、丹波市に農の学校もできるが有機農産物を食べる人が伸び悩んでいるのが問題だという。有機農業を辞めた後は広島に帰ってゲストハウスを作って平和運動をしたいという夢もお聞きました。(加古川東 G 小原 恵子)

食料環境セミナー報告

「種を守って有機農業を広げよう。

自由なタネなしに自由な社会は作れない」

日本の種を守る会事務局アドバイザー

印鑰 智哉 さん

2月17日(日) 13:00~15:30

人類は進歩を遂げる一方大きなものを失ってしまった。“土・種”。

<土>すでに世界の30%以上の土は失われ、あと60年で世界の土壌は消失との予測から2015~24年は国際土壌の10年とされている。原因は農業の近代化による化学肥料の乱用。豊かな土壌では根の周りの菌根菌糸が広がって理想的なバランスを保ち、植物に栄養を送り込む。森や農地では様々な植物の根が繋がり、多様性が生まれて植物の生命力を強め、災害にも強い土壌となる。化学肥料の投入で土壌本来のエネルギーが奪われたのだ。

<種>世界の種子市場の約7割はグローバル企業に握られ、農薬に耐性を持つ遺伝子組み換えの種、苗を化学肥料、農薬とセットで独占販売している。本来の自然の種から選別してクォールという固定種が生まれ、その地域にあう種が守られてきた。しかし企業と国の政策により種の保存が危ぶまれている。アメリカではスイートコーンは1903年は307種あったが、今は90%が失われた。 Monsanto社は1種の種の開発費に150億円かけるが、その種を違う土地で育てても生産性は上がらない。種は地域で作るものであり多国籍企業には作れない。栄養面においても遺伝子組み換え大豆、とうもろこしのたんぱく質は在来種に比べ28%も少なく、ミネラル類においては非常に少なく有害物質のみが多くなっている。主要農作物種子法も昨年廃止され、種子法で守られてきた米、大豆、麦以外の種子や苗をカバーする為の種苗法も TPP 発

効を口実に自家採取原則禁止に変えられる可能性がある。これらの廃止法案は民間企業のためであり、種子の多様性が消え、日本の農業全体の力は失われる。種子法の下、地域の種を守ってきた農業試験場の廃止が危惧される。政府の目的は地域が守ってきた種を外国に渡し、さらにバイオテクノロジーの事業展開をめざしている。ゲノム編集した大豆が今にも日本に入ろうとしている。EU、ニュージーランドはゲノム表示の義務付けを決定。他の多くもその方向で動いている。日本ではその動きは全くない。知らないうちに口にできる可能性もでてくるので心配だ。

<土壌と腸はシンクロ>世界の土壌が傷つき失われるのと共に人々の腸も傷ついている。多くの子供に増えているリーキガット(たべものが腸でもれる)、糖尿病、慢性病の増加。アメリカでは40代の人の寿命が年々縮んでいる。糖尿病患者数の増加とグリホサート(除草剤の一種)・遺伝子組み換え耕作の割合は比例している。アルギン、アトピーで苦しむ人々が古代小麦や古代米により改善されたという成果も出てきており、ゆきひかり(アトピーに効果)雪の穂(糖尿病に効果)の品種に効果が期待されている。

<これから>土、種、多様性、そして人間の健康が失われていく。これを取り戻すため、食の民主主義、フードモーションが世界で広まっている。食を変えることで農業は変えられる。その公共政策が必要。そのためにアグロエコロジーへの転換が進んでいる。また2014年の国際家族農業年もさらに2019~28年の10年間を『家族農業の10年』とすることが国連で決定。シードバンクも世界で作られている。気候変動を止めるためにも土壌を回復させる農業が期待される。アグロエコロジーを進め、家族農業の強化、個人、団体、行政と様々なレベルでの行動が必要とされる。

(桜木町G 横山 節子)



日本有機農業研究会 全国大会 in 琵琶湖

2019年2月23日~24日

琵琶湖岸のホテルで開催された日有機研全国大会は、あふれんばかりの人で賑わいました。大飯原発の運転差し止めを命じる判決を書いた樋口英明・福井地裁元裁判長の講演は期待を裏切らないもので、判決はごく自然な検証の結果であることを説明されました。会場からの「原発を差し止めない判決が15もありますなぜですか？」という質問に、最高裁の判決に倣う先例主義の説明をされ、裁判官に必要な(周囲に流されない)独立の気概が求められる旨の回答でした。生存権を大事に考え、真摯に裁判官という職務に取り組む姿勢は至極当然の筈ですが、差し止めを命じた裁判官は2人だけです。

さて、大会のテーマは「何やねんPGSって?」でした。「使い捨て時代を考える会」の植田劭さんと、生産者の橋本慎司さんが基調報告しました。二人の報告と樋口さんの講演からヒントを得て「食」を生存権としてとらえるとわかりやすいのではないかと思います。「食品公害」は形を変えて深刻になっています。閉鎖的になってしまった現状の提携ではなく、より開かれたシステムで人と地球の生存権を守り、新規就農者を支えようというのがPGSの取り組みです。あとは具体的な行動に移すことで、作り上げていくことになるでしょう。大会には「求める会」からは、宿泊者9人、初日参加者6人と計15名が参加し、マルシェでお手伝いをしました。参加者の感想を聞きたいと思っています。

(潮見G 大野 貞枝)

4月のカレンダー

- 4月10日(水) 部会
- 4月17日(水) 全体会
- 4月20日(土) 共同購入申込締切日
- 4月22日(月) 自動引き落とし日
- 4月24日(水) 食料環境セミナー



4月全体会議題

- ・総会資料(2019年度活動計画、2018年度会計決算、2019年度予算、2019年度代表・世話人)の検討
- ・求める会の今後について(総会提案の内容の検討)

牛乳の値上げについて

飼料の穀物価格の高騰など、生産者の経費増大により原乳の価格が上がったため、4月から下記の価格になります。

牛乳	1000ml	320円	⇒330円
	500ml	165円	⇒175円
ヨーグルト	大	230円	⇒240円
	小	85円	⇒90円
飲むヨーグルト		320円	⇒330円
カマンベールチーズ		505円	⇒525円

高齢者はタンパク質増量を

厚生労働省の有識者検討会は22日、国民の健康増進や生活習慣病予防のため、エネルギーと栄養素の摂取量基準を示す「日本人の食事摂取基準」の2020年版の策定に向けた報告書を、大筋でまとめた。加齢で心身が虚弱になる「フレイル」を防ぐため、高齢者が必要とするたんぱく質の摂取量を引き上げるなどが柱。

食事摂取基準は、健康増進法に基づき厚生相が定め、5年ごとに見直される。検討会の報告書を基に20年版の基準を策定し、年内に告示。来春から適用する。(稲田さんよりML配信の記事より)

野菜の端境期のお知らせ

4月第1週から端境期が始まります。第1週は火・金はお休み、木曜日は配送があります(ただし伊勢、鴨子ヶ原、松浜、鶴甲団地、潮見、魚崎中町、住吉本町、呉川町、住吉台2、福知山は除きます)。

3月最終週に配送予定表が入りますので、配送日を確認してください。

2019年度総会

5月25日(土)10:30~14:00

今から予定に入れておいてください。

5月の全体会はありません。

菊芋のキューちゃん漬け



【材料】 菊芋1キロ、酢50cc、みりん50cc、砂糖150g、醤油350cc、生姜半かけ(好みで増減)

- ① 菊芋を洗い皮ごと薄くスライスして塩もみ(きゅうりの塩もみ程度)絞る。
- ② 材料の調味料と生姜の千切りを鍋に入れて沸騰させ、①を入れて冷ます。
- ③ 冷めたらざるで菊芋と調味液を分け、調味液を再び沸騰させ、菊芋を入れてそのまま冷ます。
- ④ これを3~4回くり返す。(だんだん濃くなるので好みに応じて)

(池野さんのレシピ)

食料環境セミナー

「日本の食料の未来のために」
「食べられる野草を知ろう」
- 食料危機を前にして -



4月24日(水)10:30~12:00

使い捨て時代を考える会

相談役 植田 劭さん

会場: 神戸学生青年センターホール

参加費: 600円

主催: (公財) 神戸学生青年センター